

## PF 懇談会だより

### PF シンポジウムをふりかえって

雨宮慶幸（東大・新領域）

PF リングの光が初めて出たのは 1982 年 2 月ですから、この 2 月で丸 24 年になります。ということは、PF は今年が年男（or 年女？）です。リングのライフタイムを考えると 24 才は青年と言うわけにはいきませんが、これから次の一回りに向かって熟年として更に充実した研究活動を展開すること、そして何よりも次世代を出産することに大きな期待がかかっている世代を迎えていると思います。この 2 年間 PF 懇談会の会長として、PF のサポーターとして応援をしてきたつもりですが、微力であったなあと感じているところです。

さて、PF シンポを振り返って、印象に残ったことを思い起こしてみます。

今年の PF シンポの開催日程（3/23, 24）は大学の卒業式、修了式及び祝賀会の日程と丁度重なってしまいました。研究室の卒業生、修了生には不義理をして申し訳ないと思いましたが、PF シンポを優先して参加しました。例年のように 1 週間程度早い日程での開催であればありがたかったと思います。

招待講演ですが、どの講演も非常にインパクトがあり興味深い研究内容でした。内容の紹介はここでは割愛しますが、PF シンポに参加しない方にもこのような PF での素晴らしい成果がどんどん伝わるようにより一層の広報活動が必要なのではないかと思えます。

「PF 外部評価結果と今後の対応」、及び「PF の運営」における議論は意義があったと思います。これに関連して、これまで PF を引っ張って来られた松下さんから若槻さんに 4 月からバトンが渡されることが決まっており、若槻さんから新しい方針に関する所信表明がありました。長きにわたって PF 施設長の任を努められた松下さんのご尽力に対して「お疲れ様でした。ありがとうございました。」との感謝の思いがあります。と同時に、新しく PF 施設長役を務める若槻さんには「ガンバレ！」の声援を送りたいと思います。PF に新しい息吹、新しい風が吹くことを期待しています。また、物構研の所長が小間さんから下村さんに 4 月から交代しますので、これも大きな節目かと感じています。

直線部増強の報告、ERL 光源計画の報告がありました。厳しい予算環境の中ですが、PF 施設とユーザーがベクトルを揃えて今まで以上に推進力を付ける必要を感じます。そのためには、新しいユーザーの参入も期待されることです。特に ERL 光源計画は大きな計画ですから、2011 年から始まる第 4 次科学技術基本計画の時期に焦点を合わせて R&D を含めた取り組みをしっかりと行って行く必要を感じます。



2 日目の「PF の外部評価結果と今後の PF の運営について」で座長を務める雨宮氏。

ポスターセッションに関しては、時間が短く十分に見ることが出来なかったことが心残りです。出来ればもう少しポスターセッションの時間を長く設定して頂ければと思います。

PF シンポの開催中に開かれた PF 懇談会の運営委員会で次期会長に村上洋一さん（東北大・理）が選出されました。4 月から村上会長を中心に PF 懇談会にも新しい息吹、新しい風が吹くことを期待しています。

最後になりますが、PF シンポの実行委員長である足立さんはじめ、実行委員の皆さんに感謝します。また、私が PF 懇談会会長を務めた 2 年間、ご尽力頂いた幹事の皆さんに感謝します。

### PF シンポジウムに参加して

新日本製鐵（株） 木村正雄

先日開催された第 23 回 PF シンポジウムに参加したところ、依頼されて感想を執筆することになりました。シンポジウム全体の概要は他の先生方から報告があると思いますので、ここでは参加して特に感じた点を述べることにします。

PF に入入りさせてもらうようになってから 16 年近く経ちますが、PF シンポジウムにはできるだけ参加するようにはしてきました。今回は講演させて頂く機会が与えられ、かつこれからの PF 運営について重要な節目となることで、気合たっぷり(?)で臨みました。

今回は 6 件の招待講演がありました。普段は学会等でも自分の研究に関連する講演を中心に聞くことが多いので、多彩な分野の話を時間をかけて聴く良い機会となりました。分野が全く違って、課題に取り組む発想やアプローチ法が意外にヒントになることも多く、今回もいくつかのアイデアを得ることができました。

私は「さびを高機能化して鋼を守る一腐食での固液界



招待講演中の木村氏

面反応の制御—」という題で講演させて頂きました。例年の PF シンポジウムで講演されている内容を思うと、講演の内容について悩みました。私は企業内研究者という立場で長年 PF にて実験をしてきましたので、放射光を利用した研究が工業的課題の解決に大きく貢献した実例を紹介することにしました。“なぜ放射光でさびの研究？”と言われることもあるのですが、普段目にするなげない現象も実は奥が深いこと、nm オーダーの現象を理解し制御することにより km オーダーの構造物を支える技術が可能になること、を理解して頂くことができたならば何よりです。

二日目の朝には、PF の外部評価結果についての報告と、それを踏まえて今後の運営について新執行部の先生方より具体的な方針案が提示されました。PF の外部評価結果についての報告を聞きながら、PF そして放射光そのものを取り巻く研究環境が最近大きく変化していることを改めて痛感しました。一言でいえば accountability がより強く問われるようになったとでも表現できるでしょうか。放射光に対する認識が広まり、かつ研究施設が増えて利用機会が増えた分、“何をするのか”“どうして放射光なのか”“成果は何か”といったことを研究コミュニティーや社会に対してははっきりと示せることがより一層求められているように感じました。

提示された方針案では、限られたリソースを最大限に活用するために、核となる研究分野の重点化を行うことやそれに伴うスタッフのグループ制等、具体的な内容が示されました。これらは PF を利用させて頂いている我々ユーザーに直接関係する内容でした。そのため、その後の質疑の時間では多くの質問・コメントがでました。私も産学連携に関していくつかの質問とコメントをさせて頂きました。産学連携に関しては SPring-8 が非常に力を入れています。PF においても PF ならではの形で産学連携を進めていきたいという強い希望から発言させて頂きました。

産学連携では、ルーチンとなった手法に関してタイミング良く答えを出すスループットが強調されます。しかし、さらに重要なのは、シンプルな系について確立された手法を組合せたり改良したりして、複雑な実プロセスや反

応解析のメカニズム解明に応用していくノウハウではないかと、日頃感じております。そのために、私自身、ちょっとした試行実験を重ねながら独自の *in situ* 観察の手法を作り上げることに取り組んできたのですが、その際 PF 独特の雰囲気やスタッフの方々の経験・知識・技術・サポートはなくてはならないものでした。こうした PF の財産（目には見えにくいのですが）は産学連携を進める上での大きな強みではないかと考えております。

PF に来ると実験やその準備に追われて、なかなか一歩高い視点から物事を見ることができません。その意味では、PF シンポジウムは、放射光の研究の広がりを感じたり、PF のあり方について自分なりの考えを整理できる、良い機会でした。単にビームタイムをもらい研究成果をあげるだけでなく、その運営に関しても積極的に発言・関与していくことも、ユーザの責任かもしれないと感じた 2 日間でした。

## 平成 17 年度第 2 回 PF 懇談会幹事会議事メモ

日時：2006 年 3 月 22 日（水）10:30-12:00

場所：PF 研究棟 2 階会議室

出席者：雨宮慶幸（東大・会長）、中島伸夫（広島大・編集）、齋藤智彦（東理大・利用）、間瀬一彦（PF・行事）、土屋公央（PF・会計）、宇佐美徳子（PF・利用）、足立伸一（PF・庶務）、松下正（PF）、春日俊夫（PF）、野村昌治（PF）、河田洋（PF）、森史子（PF・事務局）

1. 各幹事の活動報告を行った。（詳細は運営委員会議事メモを参照）
2. PF シンポジウムの「PF の運営について」のセッションで議論すべき内容について意見交換を行った。PF シンポジウム 2 日目の PF 外部評価結果の報告、次期執行部の運営方針説明を受けて、広くユーザーの意見を取り上げることとした。

## 平成 17 年度第 2 回・平成 18 年度第 1 回 PF 懇談会新旧合同運営委員会議事メモ

日時：2006 年 3 月 23 日（木）12:30-13:30

場所：国際交流センターユーザーズルーム 2

出席者：(所外委員)雨宮慶幸(東大・会長)、尾嶋正治(東大)、河内宣之(東工大)、佐々木聡(東工大)、中井泉(東理大)、宮原恒あき(首都大)、村上洋一(東北大)、渡邊信久(北大)(次期所外委員)田淵雅夫(名古屋大)、平井光博(群馬大)、組頭広志(東大)

(所内委員)飯田厚夫、伊藤健二、小林克己、山本樹、前澤秀樹、松下正、春日俊夫、野村昌治、河田洋(幹事)中島伸夫(広島大・編集)、佐藤衛(横浜市大・行事)、

齋藤智彦（東理大・利用），間瀬一彦（PF・行事），土屋公央（PF・会計），宇佐美徳子（PF・利用），足立伸一（PF・庶務），森史子（PF・事務局）

1. 雨宮懇談会会長より，本運営委員会が次期運営委員会との合同開催である旨の説明があり，次期所外委員に新規選出された田淵雅夫委員，平井光博委員，組頭広志委員より自己紹介があった。
2. 会計幹事より，平成16年度収支報告および平成17年度収支中間報告が行われた。平成17年度の会費未納が37%あり，収入額が当初予算を40万円ほど下回っていること，基礎講習会のテキスト印刷費が予算額を18万円ほど上回っていることが報告された。基礎講習会のテキストについては，来年度以降も同じテキスト使用できるので来年度の予算項目から減額でき，名簿については来年度から電子化するため名簿印刷代・送料を削除できるとの説明があった。
3. 行事幹事より，平成17年度放射光利用研究基礎講習会の報告が行われた。またPF懇談会として日本放射光学会年会プログラム委員会，PFシンポジウム実行委員会への参加が報告された。
4. 利用幹事より，PF次期光源検討委員会利用ワーキンググループへの参加が報告された。また，共同利用研究者宿舎の設備改善に関して，ユーザーズオフィス委員会に参加したことが報告された。
5. 編集幹事より，PFニュース編集委員会の平成17年度活動について報告された。
6. 庶務幹事より，会員現況，次期PF懇談会運営委員の選挙結果について報告された。
7. 庶務幹事（広報幹事代理）より，メーリングリスト，ホームページ，名簿データベースの運用状況と今後の運用方針について報告された。
8. 次期PF懇談会長として，村上洋一委員を選出した。
9. PF懇談会総会の議題について審議した。
10. PFシンポジウムの「PFの運営について」のセッションで取り上げる話題について議論を行った。
11. その他
  - ・桜井広報幹事によって整備されたブログ式ホームページを今後より活用し，施設からの情報発信やユーザーとの双方向通信に役立てるべきであるとの提案があった。
  - ・KEK共同開発研究費の旅費の運用方法について，改善を求める意見が出された。

## 平成17年度 PF 懇談会総会議事メモ

日時：2006年3月23日（木）12:30-13:30

場所：国際交流センター交流ラウンジ1・2

1. 各幹事の活動報告を行った。（詳細は運営委員会議事メモを参照）
2. 会計幹事より，平成16年度決算報告および平成17年度収支中間報告が行われた。平成16年度決算について承認された。
3. 雨宮慶幸会長より，次期会長に村上洋一氏（東北大）が選出されたことが報告された。村上洋一次期会長より挨拶があった。

## PF 懇談会次期運営委員選挙結果について （任期：平成18年4月～平成20年3月）

PF 懇談会会則第10条および細則第4条に基づき，次期運営委員の選挙が行われた。PF外運営委員候補者として，PF外会員およびユーザーグループからの推薦に基づき，1月下旬に30名が選出された。その後，PF外会員による選挙を行い（平成16年2月17日締切，投票総数152通，うち有効投票数149通），上位得票者20名が次期運営委員として選出された。選挙管理委員は，会長指名により宇佐美徳子（PF），足立伸一（PF）各会員であった。一方，PF内部委員はPF内会員による投票により決定した。次期運営委員の名簿を別掲する。

## PF 懇談会 H18年, 19年度運営委員名簿

外部委員	朝倉 清高	北海道大学触媒化学研究センター
	雨宮 慶幸	東京大学大学院新領域創成科学研究科
	尾嶋 正治	東京大学大学院工学系研究科
	柿崎 明人	東京大学物性研究所
	組頭 広志	東京大学大学院工学研究科
	桜井 健次	物質・材料研究機構 材料研究所
	佐々木 聡	東京工業大学応用セラミック研究所
	佐藤 衛	横浜市立大学大学院国際総合科学研究科
	高倉かほる	国際基督教大学教養学部理学科
	高橋 敏男	東京大学物性研究所
	田淵 雅夫	名古屋大学大学院工学研究科
	中井 泉	東京理科大学理学部
	中川 敦史	大阪大学蛋白質研究所
	西川 恵子	千葉大学大学院自然科学研究科
	野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所
	平井 光博	群馬大学工学部
	内部委員	藤森 淳
三木 邦夫		京都大学大学院理学研究科
村上 洋一		東北大学大学院理学研究科
渡辺 信久		北海道大学大学院理学研究科
飯田 厚夫		物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
伊澤 正陽		物質構造科学研究所・放射光源研究系
伊藤 健二		物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
春日 俊夫		物質構造科学研究所・放射光源研究系
河田 洋		物質構造科学研究所・放射光科学第二研究系
小林 克己		物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系
野村 昌治	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系	
前澤 秀樹	物質構造科学研究所・放射光源研究系	
柳下 明	物質構造科学研究所・放射光科学第一研究系	
若槻 壮市	物質構造科学研究所・放射光科学第二研究系	

## 幹事会メンバー

	氏名	所属
会長	村上 洋一	東北大学大学院理学研究科
利用幹事	齋藤 智彦	東京理科大学理学部
	百生 敦	東京大学大学院新領域創成科学科
	高橋 浩	群馬大学工学部
	稲田 康宏	物質構造科学研究所
行事幹事	組頭 広志	東京大学大学院工学系研究科
	足立 伸一	物質構造科学研究所
広報幹事	千田 俊哉	産業技術総合研究所
庶務幹事	澤 博	物質構造科学研究所
会計幹事	原田健太郎	物質構造科学研究所
編集幹事	伏信 進也	東京大学大学院農学生命科学研究科